

第18回最上小国川流域環境保全協議会の概要について

標記の協議会について下記のとおり開催しました。
「工事の進捗状況についての報告」「前回の協議会における指導事項と対応」「重要種等の対応状況」「令和元年度環境影響調査の報告」「ダム工事期間中の調査結果の総括」および「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。その概要は下記のとおりです。

記

1 日 時 令和2年3月10日（火） 13:30～15:30

2 場 所 最上町立中央公民館2階 みどりホール

3 出席者 11名（2名欠席）

原慶明委員長、阿部太悦委員、板垣善悦委員、伊藤武美委員（伊藤英一代理）、今井正委員、梅田信委員、加賀山祐委員、高橋治委員、高橋光明委員（信夫榮代理）、柳原敦委員、横倉明委員

4 審議の結果

各委員からの主な御意見（要旨）

- ・梅田委員 【濁度観測】【今後の環境調査】
 - ・赤倉水位のデータを見ると、一時期測定器に不具合があったのかと思われる。水位データは川の基本でもあるので、信頼性が劣るのは問題。水位計のメンテナンスや更新の検討をお願いしたい。
 - ・環境調査は、出来てからどうなるのかが大事。事後モニタリングも同じ精度を保つことが大切なので、予算措置を行い、委託による調査が継続できるよう検討してほしい。
 - ・継続的に実施してきた水質調査結果を用いて、工事中の河川水質への影響を確認、評価しておくべき。
- ・今井委員 【猛禽類調査】
 - ・ダム工事による猛禽類繁殖への影響はほとんどなかったと結論づけて良い。本年度で猛禽類調査を終了することについて、異論はない。【ヤマセミ調査】
 - ・工事中もダム下流で繁殖していることから、ダム工事による影響は軽微だろうと推定できる。本年度でヤマセミ調査を終了することについて、異論はない。
- ・横倉委員 【イチゴナミシヤク調査】
 - ・山形県での本種の確認は、本調査でH24、H26年と最上町での学術調査の際に確認された個体のみであり、貴重種であることは間違いないが、あまりに個体数が少なくて評価できない。今後の調査は事務局案どおり、終了で良いだろう。
- ・原委員長 【ナガミノツルケマン調査】【附着藻類調査】
 - ・ダムにより無くなる群落を保障するだけの移植に成功したことで、今後調査を打ち切ることで良い。保管している種子は、新たな場に撒くか、環境省の種子保存施設に預けると良いと思う。
 - ・附着藻類調査は人為的な誤差が大きい項目なので、今後のモニタリングでは今までの調査方法を堅持することを基本とする調査体制をとって欲しい。
- ・加賀山委員 【魚介類調査】【底生動物調査】【河床状態調査】
 - ・魚介類の評価については、工事による影響はほとんど無いという評価の判断は妥当だろう。
 - ・底生動物についても、優占種（群集）に変化はないので、影響はほとんど無いという評価は妥当だろう。
 - ・アユが好む漁場の指標で評価しており、良好な漁場を工事期間中も保っていたため、影響はなかったという判断で良い。
 - ・今後、ダム運用後に影響が出る可能性もあるので、調査は引き続き継続していただきたい。
- ・柳原委員 【濁度観測】
 - ・濁度は下流だけでなく、できればダム上流でも取得して、ダムサイトの流量との関係などと合わせて解析できると良い。水位データは、可能であれば濁度観測と同じ場所で観測できると良い。
- ・信夫代理 【その他】
 - ・昨年の秋に上流で山崩れがあり、下流にまで影響するような濁りが発生している。ダム工事には直接関係はないのだが、一般の人からみると勘違いされる心配がある。河川管理者として、何らかの対応・対策や地域住民への説明が必要ではないか。
- ・板垣委員 【その他】
 - ・委員会資料が専門家向けの内容なので、もう少し素人にもわかりやすく説明して欲しい。

【開催概況】

